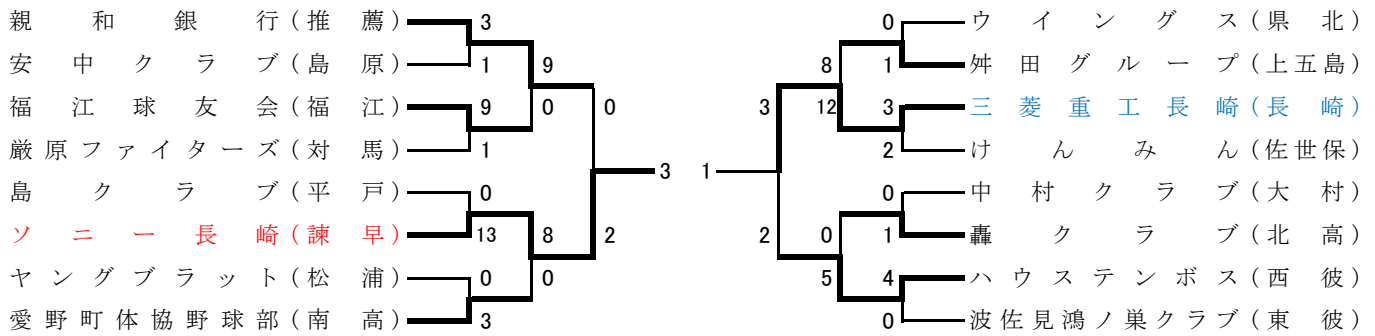


# 未踏の7連覇目指す国体準優勝の親銀を封じて初Vのソニー

<b>第45回長崎県軟式野球選手権大会</b>	会期：平成7年10月20日(金)～10月22日(日)
	会場：長崎市営神ノ島仮設野球場、三菱球場



第45回県軟式野球選手権大会は20日、神ノ島仮設野球場を主会場に開幕。午前8時半から全16チームが参加して開会式の後、一回戦8試合があった。福島国体(15日～18日)で準優勝し、帰ってきたばかりの親和銀行は安中ク

ラブを3-1で下し、県選手権未踏の7連覇へ向け順調な滑り出し。このほか福江球友会や三菱重工長崎、ハウステンボスなどがベスト8へこまを進めた。  
 (平成7年10月21日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【安中】打安点

81	大町明	3	0	0
6	野田	3	0	0
9	中山	2	0	0
2	仲宗根	1	0	0
4	永川	2	0	0
3	安藤	2	0	0
7	上田	1	0	0
5	田島	1	0	0
1	大町信	1	1	1
8	大町好	1	0	0
		17	1	1

## 安中ク先制実らず

【一回戦】(神ノ島：第1試合) 振球犠盗失残併 1時間35分

安中クラブ	001 000	1	2	2	1	1	0	1	0	(6回時間切れ)
親和銀行	000 120x	3	1	5	3	3	0	7	0	【二】丸本、清水

【評】親和銀行が三回までもたつた攻撃を繰り返したのに対し、安中クは三回ワンチャンスを生かし、一死二塁で大町信のエンドランは左前に見事に決まって1点を先取した。  
 これで面白い試合に、と思われたが、親銀は四回に清水の適時二塁打で同点とし、五回には3連続四球で得た一死満塁から益永の中犠飛、添田の中前打で2点を奪い勝利を決めた。  
 安中クは3年ぶり7回目の選手権だが、ここ3大会は初戦で敗退。

【親銀】打安点

9	北田	0	0	0
8	丸本	2	1	0
2	米倉	2	0	0
H2	田口	0	0	0
3	益永	2	1	1
5	添田	2	1	1
4	清水	3	2	1
7	中田	3	1	0
6	森川	2	1	0
1	下峰	1	1	0
H	永田	1	0	0
1	荒金	1	0	0
		19	8	3

【巖原】打安点

2	山田茂	3	0	0
8	一宮	2	0	0
7	松本	3	0	0
3	斉藤	3	2	0
1	山田聡	3	1	0
9	小島和	2	0	0
5	小島隆	2	0	0
6	山坂	2	0	0
4	垣井	1	1	0
		21	4	0

## 福江球友会、着々と加点 (5回コールド)

【一回戦】(神ノ島：第2試合) 振球犠盗失残併 1時間27分

巖原ファイターズ	000 10	1	1	4	2	0	2	6	0	【三】千代田
福江球友会	224 1x	9	6	2	0	5	3	7	0	【二】鍋内、荒木、坂井

【評】福江球友会の一方向的なゲームとなった。5年ぶり10回目出場の古豪・福江は初回に2四球を挟んで荒木の二塁打、二回は敵失と重盗で各2点。三回は押し出しと千代田の満塁走者一掃三塁打で4点といった具合に着々に得点を重ねて、初出場の巖原ファイターズに四回無死満塁に投手暴投による1点だけに抑えて、5回コールドにしとめた。

【福江】打安点

7	千代田	3	1	3
5	大畚	3	0	0
9	中尾	0	0	0
6	鍋内	2	1	0
98	山田	2	1	0
23	坂井	2	1	0
32	荒木	3	3	2
4	大岩根	2	1	1
81	勝本	3	1	0
15	才津善	1	0	1
		21	9	7

## ソニー、初回到9点 島クを増本一早田で完封

【ソニー】打安点

5	川下	4	2	1
8	吉崎	2	1	0
9	野口	3	1	2
2	天野	3	2	3
1	増本	2	1	1
2	戸嶋	1	0	0
4	川田	3	2	1
6	吉山	3	1	2
6	水本	1	0	0
2	西川	3	1	0
1	早田	0	0	0
7	山野	2	1	1
		27	12	11

【一回戦】(神ノ島：第3試合) 振球犠盗失残併 1時間36分

ソニー長崎	911 20	13	5	5	2	5	1	6	0	【三】天野、吉山、野口、吉崎
島クラブ	000 00	0	4	2	0	0	2	5	0	【二】川下、増本(7)増本(島)

(5回コールド)

【評】勝負は一回で早々と決まった。ソニー長崎は島クラブ・村田投手の立ち上がりを攻め6長短打に四球、野選などを絡めて、なんと大量9点。これで島クラブは戦意が大幅にダウン。2安打を放っただけでソニーの2投手に5回を封じられた。ソニー長崎は先発全員の12安打だった。  
 島クラブはこの10年間で7回出場しているが、初戦で消えるのは昨年に続いて4回目。無得点敗戦は3度目だがコールド敗戦は始めてのこと。

【島】打安点

61	菰田	3	0	0
9	度島	3	0	0
5	田中	1	0	0
3	増村	1	1	0
1	村田	1	0	0
1	山見	1	0	0
7	平松	1	0	0
H	幸谷	1	0	0
8	小野	2	0	0
2	柳本	1	0	0
2	藤田	1	0	0
4	石田	1	1	0
4	中村	1	0	0
		18	2	0

【愛野町】打安点

⑥	大津	3	1	0
⑤	中尾	2	0	0
②	田中	3	0	0
⑧	木戸	2	1	2
④	宮崎	3	0	0
①	溝上	2	1	0
⑦	佐藤	2	1	0
③	吉岡	3	1	0
⑨	坂上	1	0	0
H9	月岡	1	0	0
		22	5	2

木戸2打点、愛野が快勝

【一回戦】(神ノ島：第4試合) 振球犠盗失残併 1時間30分

愛野町体協野球部	000 030	3	4	4	1	1	0	7	0
ヤングブラット	000 000	0	5	0	0	0	1	6	0

【三】木戸、大石

【評】0-0で迎えた五回の愛野町体協は吉岡の三遊間安打を口火に無死満塁の好機を迎え、一死後に田中の三振の際に投手暴投があつて1点。続く木戸の左中間三塁打で二者をかえして優位に立った。選手権初出場の松浦・ヤングブラットは愛野を上回る6安打を放ちながら、決定打が無く時間切れで初戦敗退した。

【ヤング】打安点

⑦	坂本	3	0	0
⑧	中野	3	2	0
⑤	川村	3	2	0
②	小松	3	0	0
③	桑下	3	0	0
①	大石	3	2	0
⑥	内野	2	0	0
⑨	内野	2	0	0
④	野元	2	0	0
		24	6	0

【舛田】打安点

④	立石	4	0	0
②	舛田	3	0	0
⑥	浜崎	2	0	0
⑤	立石	3	1	0
③	古川	3	1	1
⑨	舛田	2	1	0
①	井内	2	0	0
⑦	坪井	2	0	0
⑧	和田	3	1	0
		24	4	1

舛田、初回の1点を守りきる ウィングス好捕に泣く

【一回戦】(神ノ島：第5試合) 振球犠盗失残併 1時間34分

舛田グループ	100 000 0	1	4	1	3	0	2	6	0
ウィングス	000 000 0	0	2	2	0	1	2	5	0

【二】立石宏

【評】舛田グループは一回二死後に浜崎が敵失で生き、立石の左越え二塁打で二三塁とした後に古川の遊撃左の内野安打で挙げた1点が決勝点となった。県北代表のウィングスは選手権初出場。四回に走者を二塁に置いて松永の左中間を破るかと思われた打球が、中堅手・和田に好捕されたことが惜まれる。

【ウイン】打安点

②	川迎	3	0	0
⑤	福田	2	0	0
⑧	坂口	3	1	0
①6	松永	3	0	0
⑥1	山村	3	0	0
⑦	村上	3	0	0
③	伊藤	2	1	0
R3	山村	2	0	0
⑨	浜田	2	0	0
H	栗原	1	0	0
④	井村	2	0	0
		24	2	0



三菱重工、6回突き放す けんみん同点つかの間

【一回戦】(三菱：第1試合) 振球犠盗失残併 1時間18分

けんみん	000 002 0	2	7	0	0	0	1	3	0
三菱重工長崎	011 001 X	3	2	5	0	2	3	4	0

【三】布村 【二】梶田、福田

【評】三菱重工長崎は六回表に同点とされたが、その裏すかさず追加点を奪って突き放し初戦をものにした。三菱は二回、二死一塁に7番の布村が左中間を破って先制。三回も二死後、梶田の二塁打を足掛かりにダブルスチールを狙う積極的な攻撃で相手のミス誘って加点した。けんみんは佐世保地区から初出場。六回に橋元の巧打で同点としたが反撃もここまでだった。

6回裏、三菱重工二死一三塁に布村がライト前に弾き返して3点目

【けんみん】打安点

⑥	横山	3	0	0
④	浜元	3	0	0
⑨	橋元	3	1	2
⑧	桑原	3	1	0
②	瀬井	3	0	0
⑤1	松尾	3	0	0
⑦	楠田	3	1	0
③	橋本	3	1	0
①5	中島	2	0	0
		26	4	2

【三菱】打安点

⑧	梶本	3	0	0
⑨	梶田	3	1	0
⑦	江添	1	1	0
④	向井	3	0	0
③	松永	3	0	0
②	山崎	0	0	0
⑤	布村	3	3	2
⑥	碓井	2	0	0
①	池野	2	0	0
		20	5	2

轟ク 中村ク 決定打欠く 終回貴重な1点

【一回戦】(三菱：第2試合) 振球犠盗失残併 1時間41分

轟クラブ	000 000 1	1	8	5	1	1	0	8	0
中村クラブ	000 000 0	0	8	2	0	2	2	3	0

【評】轟クラブは両チームを通じて数少ない好機をモノにし勝利を収めた。六回まで両チームとも出塁はあるものの、もう1本が出ずにゼロ行進。轟は七回表に先頭の浜崎が中前に運んで出塁。四球と相手の守りの乱れにも助けられて貴重な1点を挙げた。9年ぶり7回目出場の中村クラブも出塁すると積極的に盗塁を狙って攻撃を仕掛けたが、得点を奪うには至らなかった。

【轟】打安点

⑧	川副	3	0	1
⑨4	平野	4	0	0
②	谷端	4	0	0
③6	山口	3	0	0
⑤	新北	2	0	0
⑦	浜崎	1	1	0
①	土橋	3	0	0
④	湯江	2	1	0
⑨	藤田	0	0	0
⑥	大木	2	1	0
H3	芦塚	0	0	0
		24	3	1

【中村】打安点

⑥	畑川	3	0	0
⑨	朝長	3	0	0
⑧	大園	3	0	0
①	岩崎	2	0	0
④	奥田	2	2	0
③	秋山	3	0	0
⑤	岩本	2	0	0
⑦	広瀬	2	0	0
②	宮本	2	1	0
		22	3	0

【ハウス】打安点

⑧	吉川	3	1	0
②	永井	4	1	0
⑦	吉原	4	0	0
⑤	乙須	3	0	0
③	尾崎	2	2	0
⑨	古賀	3	1	1
⑥	田代	3	2	2
④	楠本	3	0	0
4	千田	0	0	0
		25	7	3

好機確実に得点

【一回戦】(三菱：第2試合) 振球犠盗失残併 1時間32分

ハウステンボス	010 102 0	4	2	2	3	1	0	5	0
波佐見鴻ノスケア	000 000 0	0	7	1	1	1	1	4	0

【二】古賀

【評】ハウステンボスは好機を確実に得点する堅実な野球で快勝した。二回二死二塁に8番の田代が適時打して先制。六回にも古賀、田代の連打で2点を追加しダメ押しをした。投手の尾崎も波佐見打線を散発の4安打に抑えて反撃を許さなかった。3年ぶり5回目出場の波佐見鴻ノ巣も継投と代打で反撃を試みたが得点はできなかった。

【波佐見】打安点

⑧	村川	3	1	0
⑥	森	3	0	0
③	石本	3	1	0
⑤	小柳	3	1	0
⑦	岩永	3	1	0
④	岩尾	2	0	0
⑨	古賀	1	0	0
H9	柿本	2	0	0
②	福田	2	0	0
①	山口	1	0	0
1	岩永	1	0	0
		24	4	0

大会第2日は神ノ島仮設野球場で二回戦4試合があった。

(平成7年10月22日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

親銀・田口の打撃光る

【二回戦】第1試合 1時間28分 振球犠盗失残併

福江球友会	000 00	0	4	2	0	0	5	5	1	【本】田口
親和銀行	302 4X	9	1	6	3	7	0	3	0	【二】田口

【評】スコア上では親銀の一方的ゲームだったが、挙げた得点は初回はノーヒットで3点をはじめ、何れもエラー絡みのもので福江球友会の自滅といえる。福江投手陣が荒れ気味で的を絞りづらい点はあったが、放った安打は3本で国体準優勝の親銀として決して褒められた打撃ぶりではなかった。この中で光ったのは3番田口のバッティングで、初回は先制の右犠飛。三回は中押しの上野打、四回には左翼フェンス(100m)越え2ランと大当たり。球友会は5年ぶり10回目の選手権。親和銀行を3-2で倒したのは25年前の昭和45年(第20回)大会二回戦でのことで3回目出場の時だったが、今回は四、五回に反撃機を迎えたがここ1本が出ずに下峰を崩せなかった。

【福江】	打安点
⑦千代田	3 0 0
⑮才津善	3 0 0
⑥鍋内	1 0 0
⑨山田	2 1 0
⑮坂井	2 0 0
⑮荒木	2 1 0
⑧1勝本	2 1 0
⑮大岩根	1 0 0
H才津勝	1 0 0
④5大岩	1 0 0
H中尾	0 0 0
	18 3 0

【親銀】	打安点
⑧丸本	0 0 0
⑥森山	2 0 0
②田口	2 2 4
③益永	3 0 0
⑤添田	1 1 0
④清水	3 0 1
⑦永田	2 0 0
7中野	0 0 0
⑨志賀	1 0 0
①下峰	1 0 0
	15 3 5

【ソニー】	打安点
⑤川下	4 2 1
⑦吉崎	3 1 1
⑨野口	3 1 0
H9山野	1 0 0
③天野	3 0 0
③増野	4 2 3
④川本	4 1 0
⑥吉山	2 0 0
②水本	1 0 1
②西川	2 1 0
H2戸嶋	1 0 0
①阿部	2 1 0
1本田	1 0 0
	31 9 6

ソニー猛攻三回に5点

【二回戦】第2試合 1時間47分 振球犠盗失残併

ソニー長崎	005 000 3	8	4	4	0	2	2	6	0	【三】川下、増本
愛野町体協野球部	000 000 0	0	8	0	0	0	3	4	0	阿部、田中義

【評】ソニー長崎は中盤の三回に打者9人を繰り出して一挙5点を奪い試合を決めた。二死一塁から1番の川下が左中間を破って先制点。吉野、野口も連打を浴びせた後の満塁に増本の左中間三塁打で合計5点。守っては阿部と本田の継投で愛野打線を3安打に零封。愛野町体協は4年連続で南高代表。初回に田中義の右中間突破三塁打が出たが、それ以降は打線が沈黙。終盤になって単打があったが後続は無かった。過去3度とも初戦突破しており通算6勝4敗は白星が先行している。

【愛野町】	打安点
⑥大津	3 0 0
⑤中尾	3 1 0
②田中義	3 1 0
⑧木戸	3 0 0
⑧田中宏	2 0 0
9萩	1 0 0
④宮崎	3 1 0
③1溝上	2 0 0
H蛙石	1 0 0
①川岡	0 0 0
3吉岡	2 0 0
⑦佐藤	2 0 0
	25 3 0

【三菱】	打安点
⑧榊本	4 0 0
⑨榊本	4 2 2
⑥向井	2 1 1
R橋本	0 0 0
6碓	1 1 0
⑮江添	4 3 3
⑦江添	4 2 2
③松永	4 0 1
④江越	4 0 0
②山崎	4 1 2
1牧瀬	0 0 0
①森	3 1 0
52布村	1 0 0
	35 11 11

三菱重工ヒヤリ

【二回戦】第3試合 2時間35分 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	201 000 036	12	2	6	2	3	2	10	0	【二】向井、関
舛田グループ	000 010 232	8	10	4	2	2	3	8	1	江添、舛田剛

(延長8、9回は無死満塁制)  
【評】三菱重工が舛田グループの食い下がりには遭いタジタジの体だったがやっとの思いで振り切った。無死満塁制の延長九回の三菱は榊田の中前タイムリーに関、江添の連続二塁打で一挙6点を挙げケリをつけた。三回まで3-0とリードを奪い、楽勝ムードの三菱がこうも苦しんだのは三回に向井の二塁打で1点を奪った後、なおも無死二三塁の加点機を逸した事。守備面では直接には七回の土壇場で同点の因となるエラーが出たことだが、選手の代え時を誤ったことである。最後は力尽きたが、舛田グループの粘りには驚かされた。舛田は7年ぶり2度目の選手権だが、今季の西日本1部で初の中央の舞台を踏んでおり粘りは折り紙つき。

【舛田】	打安点
④立石	4 3 2
②舛田好	4 0 0
⑥浜崎秀	3 0 1
⑤立石宏	3 2 1
③古川	4 0 1
⑨舛田剛	3 2 0
①井内	3 0 0
⑦青崎	2 0 1
H浜崎周	1 1 1
⑧和	4 0 0
	31 8 7

好投尾崎を打線が援護

ハウステンボス快勝

【二回戦】第4試合 2時間17分 振球犠盗失残併

轟クラブ	000 000 0	0	4	0	1	0	1	5	0	【本】田代
ハウステンボス	100 400 X	5	2	1	1	1	3	4	0	【三】辻

【二】永井、吉原2

【轟】	打安点
②谷端	3 0 0
⑥山川	3 0 0
⑧1川中	2 0 0
③中島	3 1 0
⑨芦塚	3 0 0
①土橋	2 1 0
7浜木	1 0 0
⑦8木下	2 0 0
H神谷	1 0 0
⑤藤山	1 0 0
H5馬場	1 0 0
H湯江	1 0 0
④大木	2 0 0
	25 2 0

【ハウス】	打安点
⑧吉川	3 0 0
②永井	3 1 0
⑦吉原	3 2 1
⑤乙須	3 0 0
①尾崎	3 1 0
④辻	3 1 1
⑨古賀	2 2 0
⑥田代	2 1 2
③縄本	3 0 0
	25 8 4

【評】ハウステンボスは初回一死後に永井と吉原の連続二塁打で先制。四回は辻の三塁打と田代のランニング本塁打で4点を加え勝利を確実にした。投手の尾崎は被安打2の力投で轟に反撃の機会を与えなかった。ただ内野の守備に乱れが見られたことが気になり。12回目出場の轟クラブは好機らしいものは無く、攻撃にもうひとつ工夫が欲しかった。



4回裏ハウステンボス一死二塁、田代がランニングホームランして5点目の生還

# ソニー長崎が親和銀行の連覇記録を阻む

【準決勝】

1時間21分

振球犠盗失残併

ソニー長崎	200 000 0	2	4	0	1	0	0	4	0
親和銀行	000 000 0	0	3	0	1	0	1	4	0

【ソニー】打安点

⑤川下	4	2	0
⑦8吉崎	2	0	0
⑨野口	3	1	1
③天野	3	0	0
⑧1増本	3	2	0
④川田	2	0	0
⑥吉山	3	1	0
②西川	2	0	0
2戸嶋	1	0	0
①本田	2	0	0
1阿部	1	1	0
7道上	0	0	0
26 7 1			

親銀、好機に決定打出す  
ソニー鮮やかに先制

【評】ソニーは親銀・荒金の立ち上がりを攻め、先頭の川下が中前打で出塁すると手堅く送り、野口の一二塁間を破るタイムリー打で先取。さらに二死二塁から増本の右前打、送球を焦った右翼手のはじく間に野口が本塁を陥れて2点目を挙げた。コーナーワークを身上とする荒金だが、この日は球がやや内側に入っていた。

ソニーが四回一死一三塁の加点機を逸したことから親銀に反撃機があると見られたが、四、六、七回に先頭打者を出しながら決定打が出ず、本田-阿部-増本の継投に1点も奪えなかった。親銀はいい当たりの打球が正面をつく不運もあったが、国体で全力を燃焼したせいか、疲れていたようだ。

【親和】打安点

⑧丸本	2	0	0
⑥森本	3	1	0
②田口	3	0	0
③益永	3	1	0
⑤添田	3	0	0
④清水	3	0	0
⑦中田	3	0	0
⑨米倉	2	1	0
①荒金	2	1	0
24 4 0			

福島国体での親和銀行は、初戦の北國銀行(石川)は三回に4四球で得た押し出し点を井内克久の好投で守り切った。続く地元の橋本フォーミング工業と、準決勝の佐藤薬品工業(奈良)戦は共に1点の先行を許したが、粘って同点に持ち込み、そして逆転で勝利(4-1、2-1)した。決勝戦は3連投の井内に代わって荒金照貴が登板し好投を続けたが、9回の攻防が明暗を分け大阪市信用金庫に0-2で敗戦の準優勝。

# 三菱重工競り勝つ

【準決勝】

1時間29分

振球犠盗失残併

三菱重工長崎	100 020 0	3	1	4	3	4	1	6	2
ハウステンボス	000 000 2	2	4	1	0	0	2	3	0

【三】吉川

【三菱】打安点

⑧榎本	1	0	0
⑨榎田	4	1	0
⑥向井	4	0	1
⑤関	2	1	0
⑦江添	2	0	0
③布村	3	1	0
④江越	2	0	0
②山崎	2	0	0
①池野	3	0	0
23 3 1			

ハウステンボス  
終回の反撃及ばず

【評】三菱重工長崎が、最終回のハウステンボスの反撃を2点でしのぎ1点差で競り勝った。初回に立ち上がり制球に苦しむ尾崎から先頭の榎本が歩き一死三塁とし、向井の投ゴロの間にノーヒットで先制点を挙げた三菱は、五回に四球と内野安打で無死一二塁のチャンス。すかさず重盗を決めた二三塁に向井の遊ゴロが本塁悪送球となり、労せず二者生還して追加した。

ハウステンボスは最終回に、尾崎、吉川、古賀の3連打で2点を奪ったが、四回の二死二三塁のチャンスを、守備妨害でつぶしたのが最後まで響いたが、前年に続いて2回目の選手権も4強入りした。

【ハウス】打安点

②永井	3	0	0
③辻	3	0	0
⑦吉原	2	0	0
⑤乙須	3	0	0
①尾崎	3	1	0
⑧吉川	3	2	1
⑨古賀	3	2	1
⑥田代	3	0	0
④楠本	1	0	0
H4千田	1	0	0
25 5 2			

## 平成7年に開催されたその他の競技会の戦績① (一般のみ)

### 第50回国体(成年2)予選 6.11~福江

番クラブ(佐世保)	2
富江クラブ(福江)	3 11
三井楽クラブ(福江)	2 6
森山クラブ(北高)	0 0
平戸クラブ(平戸)	7 2
松浦市役所(松浦)	4 3
上五島ブローズ(上五島)	7 0
三菱重工長崎(長崎)	18 6
諫早市役所(諫早)	0 6
上県佐護リバース(対馬)	3 0
全田平(県北)	2 1 0
吾妻体協野球部(南高)	1 0 3
九電壱岐(壱岐)	1 3
大村市役所(大村)	4 3
エンジェルズクラブ(佐世保)	6 5
彼杵スラッガーズ(東彼)	0 5
ハウステンボス(西彼)	4 3
ソニー長崎(諫早)	3

### 第50回国体(壮年)予選 5.20~対馬

佐世保西海クラブ(佐世保)	0
厳原海王(対馬)	0 2
メンフッズ福江(福江)	7 7
上五島迷球会(上五島)	棄 0
上対馬北斗クラブ(対馬)	9
ユークスクラブ(長崎)	8
松浦壮年クラブ(松浦)	棄

### 九州ミニ国体 8.18~鹿児島

成年2部  
三菱重工長崎 1-2 JA熊本信連  
本 国 体  
佐賀(3勝=準優勝)、鹿児島(0勝)

壮年の部  
メンフッズ福江 1-2 目達原自衛隊(佐賀)  
本 国 体  
福岡(2勝=ベスト4)、佐賀(0勝)

### 第50回国体(成年1)予選 7.4~佐世保

国体成年1部予選は親和銀行と前年度天皇杯出場の経済連が3戦2勝方式で  
親和銀行 6-3 JA長崎経済連  
" 2-1 "

### 九州ミニ国体 8.18~鹿児島

親和銀行 - JA佐賀信連  
" - (沖繩)

### 第50回福島国体(成年1) 10.15~18

- 【一】 1-0 北國銀行(石川)
- 【二】 4-1 橋本フォーミング工業(福島)
- 【準】 2-1 佐藤薬品工業(奈良)
- 【決】 0-2 大阪市信用金庫(大阪)

★ 鹿児島県経済連は初戦敗退 ★

# ソニー長崎初の県王座に

## 三菱重工に3-1で快勝

重  
工、  
エラーに泣く

【決勝】 1時間53分 振球犠盗失残併

ソニー長崎	000 002 100	3	2	0	1	0	0	5	0
三菱重工長崎	000 000 010	1	10	2	1	3	5	8	1

【評】守備力の差が明暗を分けた。0-0で迎えた六回、ソニー長崎は先頭の山野が右前打で出塁すると、手堅く送り吉崎は遊ゴロで二死二塁。野口の当たりはボテボテの二ゴロだったが一塁に悪送球し山野が還った。この後に天野と増本の連打が生まれて野口が生還し計2点を挙げた。三菱重工にとっては零点で終わるはずなのに、何とも手痛いエラーだった。

七回の1点も三菱のエラーがきっかけ。二死後に何でもない投ゴロを一塁に生かし山野に右へおっつけられて一三塁。川下の三ゴロが一塁悪送球となって致命的な1点を加えられた。ソニー長崎にとっては得点が転がり込んできたようなものだった。

三菱打線はソニーの6安打を上回る7本を記録したが得点に結びついたのはやっと八回。増本に代わった本田から牧瀬が死球を得(代走・橋本)、梶田の投ゴロで二進し向井の三遊間突破安打で還った1点だけ。三菱にとって惜まれるのは初回、梶本の右前打と梶田のバントヒットで迎えた無死一二塁の先制機を単純な強行策でつぶしたことだ。ここで三菱が先取点を挙げておれば異なった局面になっていたかも知れない。

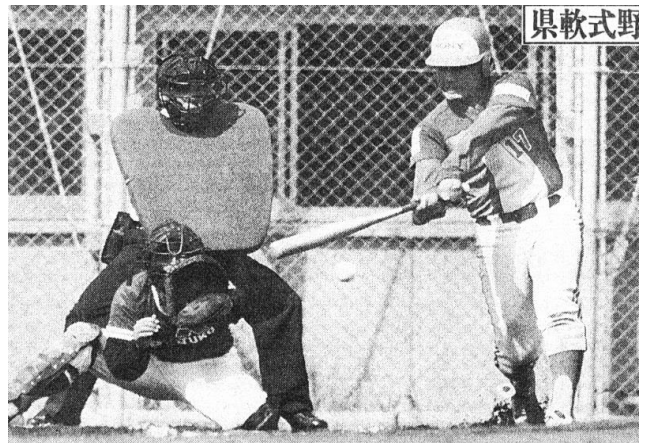
### 【表彰選手】

- 最優秀殊勲選手賞 増本 滋樹 (ソニー)
- 最優秀投手賞 本田智佳志 (ソニー)
- 敢闘賞 梶田 稔彦 (三菱)
- 首位打者賞 関 太 (三菱)

### ◆ソニー長崎・末田敦監督の話

準決勝の相手の親和銀行は軟式野球の頂点にあるチーム。一度は勝ちたいと思っていた。親和銀行に勝つての決勝だったので簡単には負けられなかった。本当にうれしい。

【ソニー】打安点		【三菱】打安点	
⑤川下	3 0 0	⑧梶本	3 1 0
⑧7吉崎	4 1 0	⑨梶田	4 2 0
⑨野口	4 1 0	⑥向井	4 1 1
1本田	0 0 0	⑤関	3 2 0
③天野	4 1 0	⑦江添	4 0 0
⑩8増本	4 1 1	②布村	4 0 0
④川田	4 0 0	④江越	4 0 0
⑥吉山	2 0 0	③松永	3 0 0
6水本	2 0 0	H山崎	0 0 0
②西川	2 0 0	①牧瀬	2 1 0
2戸嶋	2 0 0	R橋本	0 0 0
⑦山野	3 2 0	1森	1 0 0
9道上	0 0 0		
	34 6 1		32 7 1



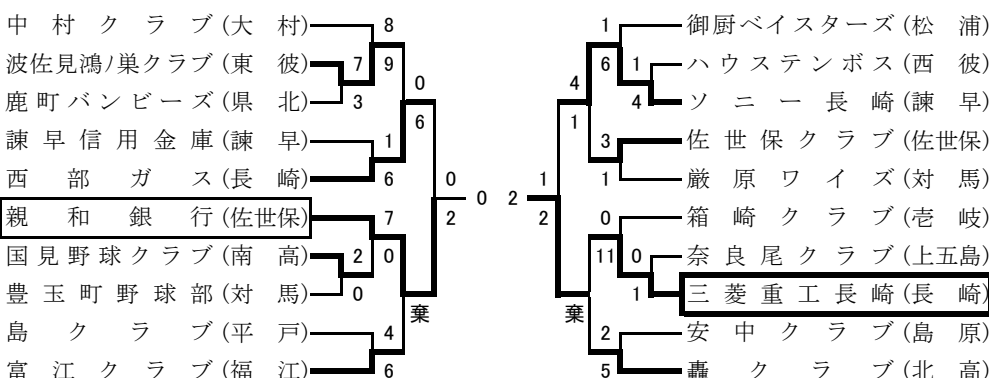
6回表ソニー長崎二死一三塁、増本が左前適時打を放ち2-0とする。捕手=布村



### 平成7年に開催されたその他の競技会の戦績② (一般のみ)

天皇賜杯第50回県予選 5.13~7.8: 佐世保

天皇賜杯第50回全日本 9.6~山口県



平成7年に開催されたその他の競技会の戦績③ (一般のみ)

第17回西日本1部県予選 4.8、15：島原

福江球友会(福江)	2
千住スポーツ店クラブ(諫早)	1 4
小浜クラブ(南高)	0 2
浜屋百貨店(長崎)	7 1
御厨ベイスターズ(松浦)	0 3
島クラブ(平戸)	1 2
大瀬戸クラブ(西彼)	6 0
島原市役所(島原)	3 5
小長井クラブ(北高)	0 3
生月体協(県北)	6 2
大村市役所(大村)	2 0
彼杵スラッガーズ(東彼)	4 4
佐世保クラブ(佐世保)	3 0
舩田グループ(上五島)	5

第17回西日本2部県予選 4.8～波佐見

ガッツBBクラブ(東彼)	4
けんみん(佐世保)	9 9
西海棒球団(西彼)	1 2
ナインズ(県北)	4 抽選 4
飯盛クラブ(北高)	11 選 5
大洋野球クラブ(対馬)	0 11
崎山クラブ(福江)	7 3
国見野球クラブ(南高)	6 抽選 5
長崎県庁(長崎)	6 抽選 4
ホーク(大村)	1 1
諫早市役所(諫早)	0 0
安中クラブ(島原)	1 抽選 3
征雄クラブ(上五島)	4 選 6
電源開発(松浦)	3 1
田河東海(壱岐)	4 2
おじんクラブ(平戸)	1

第18回九州選手権県予選 4.8～佐世保

ソニー長崎(諫早)	0
波佐見鴻巣クラブ(東彼)	0 1
三菱重工長崎(長崎)	7 0
轟クラブ(北高)	3 1
J A長崎経済連(長崎)	10 0
親和銀行(佐世保)	2

親和銀行は九州大会で7年ぶり3回目の優勝。11月の第14回秩父宮妃賜杯大会に九州2枠で出場しベスト4。

西日本2部は2日目が雨天のため準決勝、決勝の3試合は抽選決着

西日本(1部)大会 6.2～佐賀県

【一】 2-6 湖陵ウィングス(島根)

西日本(2部)大会 5.19～広島県

【一】 8-7 米子オールドスターズ(鳥取)  
 【二】 7-2 櫛兵庫サービス(兵庫)  
 【準々】 0-10 中央交通マスターズ(開催地)

高松宮賜杯第39回1部 7.1～諫早

諫早信用金庫(諫早)	2
小長井クラブ(北高)	0 2
佐世保市水道局(佐世保)	1 0
上対馬ライオンズ(対馬)	2 6
波佐見野球倶楽部(東彼)	3 0
平戸クラブ(平戸)	6 2
吾妻町体協野球部(南高)	4 1
福江球友会(福江)	5 1
大村市役所(大村)	0 5
J A信連(長崎)	1 2
ホワイトアパッチ(松浦)	1 0
大瀬戸クラブ(西彼)	2 2
鹿町バンビーズ(県北)	0 0
上五島パジャーズ(上五島)	2 0
島原市役所(島原)	4

九州ブロック(鹿児島)で敗退

高松宮賜杯第39回2部 6.3～松浦

松浦野球部(松浦)	1
征雄クラブ(上五島)	0 0
TEAM橋口(大村)	0 6
ナインズ(県北)	4 3
国見野球クラブ(南高)	4 2
福江シーガル(福江)	2 3
松島炭鉱池島鉱(西彼)	1 1
田河東海(壱岐)	5 棄
おじんクラブ(平戸)	1
ガッツBBクラブ(東彼)	8 7
F・パイレーツ(諫早)	2 10
健友クラブ(島原)	12 6
シゲマツクラブ(長崎)	4 4
アイケン医院(佐世保)	6 5
巖原ファイターズ(対馬)	2 8
飯盛クラブ(北高)	6

九州ブロック(熊本)で敗退

第47回県民体育大会 11.11～長崎

(松浦)御厨ベイスターズ	2
(北高)轟クラブ	5 4
(北松)生月町	0 7
(西彼)大瀬戸クラブ	1 4
(対馬)豊玉町野球部	4 7
(諫早)松石電設	0 0
(福江)福江ビクトリー	2 4
(長崎)三菱重工長崎	6 0
(島原)島原市役所	2 3
(壱岐)田河東海	3 1
(東彼)ホワイトスターズ	2 3
(平戸)平戸クラブ	0 0
(大村)中村クラブ	1 4
(南松)富江クラブ	2 9
(南高)愛野体協野球部	4 0
(佐世保)アイケン医院	5

第3回県壮年大会 10.28～飯盛

北松壮年クラブ(県北)	2
轟壮年クラブ(北高)	4 0
上対馬北斗クラブ(対馬)	2 0
東彼壮年クラブ(東彼)	1 3
長大クラブ(長崎)	2 2
佐世保西海クラブ(佐世保)	7